

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
2022年度の日本経済は、ウイズコロナの下で消費と設備投資が前期比プラスで推移するなど、緩やかに持ち直しています。

一方、ロシアのウクライナ侵攻などを契機として、原油や天然ガスなどの資源高、原材料価格の高騰、円安による輸入物価の上昇によって、消費者物価指数は前年比で3%を上回り、一時期41年ぶりに4%を超えました。長期にわたった物価低迷、デフレ局面が、インフレ傾向に変わる大きな局面転換となり、国内物価の上昇が家計・企業の活動に影響を与えています。また、世界的な金融引締め動き等により、海外の景気減速も懸念されます。

地域の担い手である中小企業・小規模事業者は、経営者の高齢化や後継者難、慢性的な人材不足といった従来からの課題に加え、これらコスト上昇分を販売価格に十分反映できておらず、経営環境は引き続き厳しい状況にあります。

そうした中、2023年3月末において〈にっしん〉は、預金残高8,125億円、貸出金残高3,995億円となり、当期純利益はお陰さまをもちまして1,460百万円を計上することができました。心より御礼申し上げます。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.87%と十分な水準にあります。

決算の概況については、次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめておりますので、ご一読いただければ幸いです。

金融業界でも非対面のニーズが高まっておりますが、対面による“Face to Face”でなければ提供できない価値もあります。それは、顔と顔、心と心を向き合わせ、真剣に、親身に、お客さまひとりひとりと語り合い、さまざまな期待にお応えするものです。

〈にっしん〉は2025年に明石信用金庫、三木信用金庫、神港信用金庫の3金庫合併から設立50周年を迎えます。これまで大切にしてきた“Face to Face”の営業活動と、これから必要性が増していくDX(デジタルトランスフォーメーション)による利便性・生産性向上の両立を図りながら、人間味ある価値と技術進化を融合させた付加価値を創造していきます。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2023年5月

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
2022年度の日本経済は、ウイズコロナの下で消費と設備投資が前期比プラスで推移するなど、緩やかに持ち直しています。

一方、ロシアのウクライナ侵攻などを契機として、原油や天然ガスなどの資源高、原材料価格の高騰、円安による輸入物価の上昇によって、消費者物価指数は前年比で3%を上回り、一時期41年ぶりに4%を超えました。長期にわたった物価低迷、デフレ局面が、インフレ傾向に変わる大きな局面転換となり、国内物価の上昇が家計・企業の活動に影響を与えています。また、世界的な金融引締め動き等により、海外の景気減速も懸念されます。

地域の担い手である中小企業・小規模事業者は、経営者の高齢化や後継者難、慢性的な人材不足といった従来からの課題に加え、これらコスト上昇分を販売価格に十分反映できておらず、経営環境は引き続き厳しい状況にあります。

そうした中、2023年3月末において〈にっしん〉は、預金残高8,125億円、貸出金残高3,995億円となり、当期純利益はお陰さまをもちまして1,460百万円を計上することができました。心より御礼申し上げます。また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.88%と十分な水準にあります。

決算の概況については、次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめておりますので、ご一読いただければ幸いです。

金融業界でも非対面のニーズが高まっておりますが、対面による“Face to Face”でなければ提供できない価値もあります。それは、顔と顔、心と心を向き合わせ、真剣に、親身に、お客さまひとりひとりと語り合い、さまざまな期待にお応えするものです。

〈にっしん〉は2025年に明石信用金庫、三木信用金庫、神港信用金庫の3金庫合併から設立50周年を迎えます。これまで大切にしてきた“Face to Face”の営業活動と、これから必要性が増していくDX(デジタルトランスフォーメーション)による利便性・生産性向上の両立を図りながら、人間味ある価値と技術進化を融合させた付加価値を創造していきます。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2023年5月